

【みんなの豆知識3】肥料の基本(その2) ～ 肥料を上手に使って、植物を元気に育てよう! ～

肥料は、**有機肥料と無機肥料に分類**されます。有機肥料は、動植物由来の原料が基になっており、土中の微生物のエサになって、分解・無機化されてから植物に吸収されます。一方、無機肥料は石油や鉱石などを原料として合成され、一般に**化学肥料**と呼ばれます。

化学肥料は、有機肥料と比べて、手軽で使いやすく効果が短時間で出るメリットがありますが、**使い過ぎには4つの問題点**があると考えられています。

①「土が死ぬ」

有機肥料が土中の微生物のエサになるのに対して、化学肥料はエサにならないため微生物の数を減らしてしまいます。

すると、土は弾力性を失い、固く、活力の無い土になってしまうそうです。



化学肥料のなかで一番使用量が多いのは窒素を補給する目的のものですが、過剰に与えて作物の中で消費しきれない窒素分は、**硝酸態窒素として作物の中に残留**します。この硝酸態窒素が②、③、④の原因になります。

②「発ガン物質の生成！」

残留した硝酸態窒素を含む野菜と肉などのタンパク質を食べ合わせた場合、**ニトロソアミン**という発ガン物質を生成することが解っているそうです。ちょっと怖い話です。

③「害虫好みの野菜作り？」

硝酸態窒素たっぷりの野菜ほど虫が大好きだそうです。人類は近代化農業の名のものに化学肥料を多用して、害虫が好む野菜を大量につくり、そして害虫駆除の農薬をたくさん使うという矛盾を重ねてきたようです。

④「おいしくない野菜づくり？」

窒素分の多い野菜は苦くておいしくないそうです。逆に**有機野菜には自然な甘さ**があり、私たちは直感的においしいと感じるようです。

草花・樹木・野菜を元気に上手に育てるためには、有機肥料と化学肥料の性質をよく理解したうえで使うことが大切です。(銀)

トンボはどこまで飛ぶか調査2017 トンボ調査の夏が来た!

「トンボはどこまで飛ぶかフォーラム」主催によるトンボの調査が、7月31日(月)～8月6日(日)9時～11時の2時間、京浜臨海部の10地点で行われます。この調査は今年で15年目です。

トンボの生態は自然の豊かさを示す指標とされています。今年も多くの種類や個体数の確認が出来る事を期待します。

JFEトンボみちでの調査は、7月31日(月)～8月2日(水)の9時～11時です。なお、内陸部5地点の調査は8月14日(月)から行なわれます。



昨年の調査風景
(8月2日)

昨年の実績(3日間で)

シオカラトンボ	22頭
ショウジョウトンボ	8頭
ウスバキトンボ	5頭
ネキトンボ	3頭
トンボみちの合計	38頭

【シリーズ】 トンボみちの仲間たち

6月24日(土)のファンクラブ活動の様子です。(撮影:山田さん)



公道の手入れ



緑地の手入れ



遊歩道の手入れ



ジャガイモの収穫



とれたてが
できたとに

ファンクラブのみなさん



ハリアケバ?



スイレン



七夕飾り



活動予定 ※雨天は1週間延期
 今月: 7月22日(土) 8時～10時
 来月: 8月26日(土) 8時～10時
 事前の申込みは不要です。誰でも参加可能!
 公式ホームページをご覧ください

トンボみちファンクラブ

検索

JFEトンボみち ファンクラブ通信 2017年7月号
 発行日: 2017年7月19日
 発行者: トンボみちファンクラブ
 連絡先: ファンクラブ代表 柴田 090-4627-8821
 ◆ファンクラブ通信への自由投稿をお待ちしています

※「JFEトンボみち」はJFEエンジニアリング(株)が地域の皆様に開放している公開緑地です



京浜の森ロゴマーク